

第44回 2018年2月28日(水)

ゲスト 羽柴康晴 テレビ大阪 制作局制作部プロデューサー

テーマ 『テレビ大阪の挑戦の歴史

～人気番組「和風総本家」「おとな旅あるき旅」の軌跡～』

#### 主な内容

- ◎柴犬「豆助」が番組のマスコット 全国ネットの「和風総本家」
- ◎日本の“技”に焦点 「職人さん」が主役の番組
- ◎クイズコーナーもあるバラエティー・エンターテインメント番組
- ◎気になるスター「豆助」のその後
- ◎真似しない個性的な番組作り テレビ大阪・テレビ東京系
- ◎伝統的な職人の技を途絶えさせないため映像で記録
- ◎木曜日の夜は視聴率競争の激戦区 視聴者は60代、70代の男性
- ◎三田村邦彦が案内人「おとな旅あるき旅」今年で10年目
- ◎旅先はやはり「京都」が一番多い
- ◎「今のテレビ どう思いますか」 若き制作者のテレビ観

司会 まず「メディアウオッチング」の新しいメンバーをご紹介します。  
すでに理事会にご出席いただいている読売テレビの岩渕輝義さん、そして今日から新メンバーとして加わっていただく関西テレビの西畠泰三さんです。よろしく  
お願いいたします。  
例年だとこの時期、プロ野球のキャンプで大賑わいなんですけど、本当にやっていたのかなと思うくらいテレビも新聞も冬季オリンピック一色でした。そのピョン  
チャン・オリンピック（平昌五輪）も終わりようやく世の中落ち着いて参りました。  
個人的には、今年のオリックスはどうなるのかなという戦力分析をしようと思っ  
ています。  
本年も昨年から引き続き、現役の放送人から話を聞くシリーズを続けて参ります。  
当初ご案内いたしましたテレビ大阪の制作局長岩谷哲幸さんは、本日どうしても  
外せないスケジュールが入ったということで、制作局プロデューサー羽柴康晴さ  
んにお越しいただきました。お忙しい中、ありがとうございます。  
先ず、毎週木曜日の夜 9 時から放送のネット番組「和風総本家」、それから土曜日  
夕方 6 時 30 分から 30 分間放送の関西ローカル「おとな旅あるき旅」を見せて  
いただいております。  
羽柴さんのプロフィールをご紹介します。1980 年生まれ、37 歳でいらっしゃい  
ます。入社 14 年目で 2004 年に営業に配属され、5 年後の 2008 年、制作局へ異動  
になります。制作がご希望だったと伺っております。2009 年 1 月から今日見せて  
いただく「おとな旅あるき旅」のディレクター、2009 年 4 月から「和風総本家」  
の AD として参加しておられます。  
2012 年から 2 年間テレビ東京に出向。2014 年 4 月から「和風総本家」の制作に  
AP(アシスタントプロデューサー)として本格的に関わっていきます。  
そしてテレビ大阪の制作局に戻られたのは 2016 年で現在「おとな旅あるき旅」  
プロデューサーです。  
先ほど、どなたかがちょっと羽柴さんのお名前にこだわっていらっしゃいました。  
「羽柴」と家康の「康」それから「晴」と書いて「康晴」さんとおっしゃるので  
すが、これはやっぱり、「羽柴」家の末裔ということでしょうか。

羽柴 P はい、私も気になったので本家の方へ訪ねて行ったんです。明治で途絶えると言わ  
れました。多分、江戸時代が終わって(一般庶民も)名字を名乗れるというときに農  
民が勝手に付けた名前だろうという風に言われています。一応、明治まではたどれ  
ると聞いています。多分関係ないのでは?(笑い)。

#### <柴犬「豆助」が番組のマスコット 全国ネットの「和風総本家」>

司会 手もとにテレビ大阪の社内報がありますが、ここに写っているかわいい柴犬が、こ

の番組（「和風総本家」）のスターなんです。こんな風な番組が今年で10年になります。

羽柴 P 2008年4月にスタートした番組で、丁度、丸10年になります。

司会 全国ネットの番組ですが、沖縄では放送されていないんですか。

羽柴 P 沖縄にはネットされていなくて、テレビ東京系の全国ネットで系列でない局については、番販(番組販売)という形で買っただいている局があって、今20局以上で(同時ネット局より遅れて)放送されています。

司会 系列を超えてさまざまな放送局で放送されています。私の局のフジ系列では例えば、仙台放送にも流れています。

ネット番組として成功するまでには、ずい分試行錯誤が続いたというお話を伺ったことがあります。

「和風総本家」は今年で10年目ということで、(番販を含めると)今ではネット局も大幅に増えました。

そこで羽柴さんから、この番組がどんな経緯で始まったのか、そのあたりからお話を聞かせていただきます。

羽柴 P テレビ大阪としては、ローカルではなく、全国で放送するネット番組をゴールデン枠で持ちたいということで、「和風総本家」が始まる前、二つほどトライアルとして番組を制作し、試したんですが、なかなか軌道に乗らず、ヒットしないままで終わってしまいました。ですから三本目の番組でやっとヒットしたということになります。

当初は、「和風検定」というクイズ形式の番組で、月曜日の20時という時間帯で放送していました。低迷しているときもあったのですが、2時間スペシャルを制作して、特に“職人さん”をフィーチャーしたときにいい聴率がとれたケースが多く、2年目ぐらいから日本の職人さんに焦点を当てる今の形に定着してきました。

司会 “和”にこだわっているのですか

#### <日本の“技”に焦点 「職人さん」が主役の番組>

羽柴 P もともと「和風検定」として、作法とか、お箸のマナーとか、初めはそういう和のエンターテインメント番組でした。しかし、なかなか堅苦しい部分があったので、職人という人物に的を絞って、日本古来の伝統的なものづくりをじっくり映像に記

録し見せていくように変わっていきました。

司会 「和風総本家」をご覧になっていない方もいらっしゃるかと思いますので、まず番組(DVD)をご紹介します。

『和風総本家』

「あなたの街の職人さん～福井編～」

2016年2月25日放送 (約60分)

番組の導入部 人気もののマスコット

柴犬の「豆助」が唐草模様の風呂敷を首に巻き登場

(ナレーターが語りかける)

旬の小鉢が大好きな「豆助」(16代目 0歳)

「豆助」、今日は、今が旬のアレを使った小鉢よ

その小鉢とは

(途中で<津軽三味線>の演奏が流れる)

それは、この時期はとりわけ、身が柔らかく、別名

はるつけうお春告魚と呼ばれる、そう 鯿を使った小鉢

そのうまみを凝縮させた身欠き鯿(みがきにしん)を

砂糖、醤油で甘からく煮て、旬にいただくのが鯿の甘露煮

日本人でよかった

心からそう思わせてくれる これぞ旬の小鉢

あなた 出来たよ

日本って いいな 「和風総本家」のお時間です

番組の導入部は、小鉢の中身が変わっても、ナレーションの呼びかけは毎回同じ。そして番組本編には次の文字表示が画面上下にスーパーされる。

あなたの街の職人さん 後世に残したいニッポンの技  
全国のすごい職人さんを徹底調査

(ナレーション)

日本全国のまだ見ぬすごい職人さんに出会った徹底調査。  
そこで出会ったのは人生をもの作りにささげた人々の技。

今回「福井編」の登場する職人さんは

- ① 伊藤 弘さん(81歳) 呂色師<sup>ろいろし</sup> (越前漆器の仕上げ師)  
職人歴 61年
  
- ② 藤田 睦さん(61歳) 芯張り職人 (メガネのつるに芯を  
入れる職人)  
職人歴 43年
  
- ③ 古木晶子さん(42歳) コアガラス職人 (最も古いガラス  
加工の技法を独学で習得)  
職人歴 8年
  
- ④ 吉田 實さん (79歳) 紙漉き用の道具を作る職人  
職人歴 64年

吉田實さんが作る道具は「浮かし桁」といって機械漉きの和紙で使われる道具。「浮かし桁」がないと越前和紙は作れない。

番組ではその工程を丁寧に見せていく。材料の細い竹から、ステンレス製の針金さらに穴の空いた特殊な金属の道具などを使って竹を削るなど最初に見たときにはどんなものが出来あがってくるか分からない状態から、カメラは「浮かし桁」の複雑な工程を丹念に追っていく。まさに手作りの技の記録。

この番組の軸は職人さんの高度な技を高精細の映像と巧みな見せ方で切り取っていくところにある。

「福井編」では番組の後半で、職人さんのことを知らない地元の中학생、高校生に完成した番組を見せ「職人さんの姿を見て何を思うか」とインタビューしている。

司会 途中ですが、2本の番組を見ていただきますので、ここで制作者の羽柴さんにお尋ねします。手間ひまかけて作っておられますね。

羽柴P 今、ゴールデンで放送している番組の中では、かなりカメラ台数が出ていると思います。大抵の番組で重要な役割を果たしている番組リサーチャーとして専門のスタッフを雇っているんですが、「和風総本家」はほとんどリサーチャーに頼らず、20代のADが自ら血眼になって、取材対象になる人物や場所を探します。

司会 われわれのころは、リサーチャーはおらず、ディレクター、プロデューサー、あるいはアナウンサーも自ら（撮影をする前に）事前取材していました。すべて自分たちで作るというコンセプトですが。

羽柴P それこそ、インターネット上には載っていない人をどう探すかというリサーチですから、どこかの組合の人から紹介してもらったとかというような地道な調査が毎回続きます。とにかく厳選して職人さんを選んでいきます。

#### <クイズコーナーもあるバラエティー・エンターテインメント番組>

司会 番組では職人さんのもの作りの工程を見せながら、途中で画面がスタジオに移り、クイズコーナーに移ります。東 貴博さん、萬田久子さんらゲストがいて、テレビ東京のアナウンサー(増田和也)が進行していますね。ときどき面白いことを言われますが、あのアナウンサーは結構長くやっていたらっしゃるのですか。

羽柴P そうですね。僕、同期なんですけど、37(歳)ぐらい。かなりできるアナウンサーで、リオ・オリンピックのときにレスリングの吉田沙保里選手が敗れたときにインタービューしていたのが彼女なんです。彼女が「銀メダルに終わって申し訳ない」と言ったときに「そんなことはないですよ」と言って(励まし)レポートしていました。非常に出来る人だなと思いました。

司会 ほかのよくあるバラエティー番組とはかなり趣を異にしています。回答者というか、どなたがレギュラーですか。

羽柴P 萬田さんと東さんだけがレギュラーなんです。もともと地井武男さんにも出演していただいていたんです。

司会 ロケは何日ぐらいですか。時間的にはどのくらいかかりますか。

羽柴P 大体一つの番組(一回分)を制作するのに2~3か月かかりますね。(1時間番組ですから)やっぱり相当、時間はかかります。

司会　　こういう手法でやろうというコンセプトはどのように決まったのですか。

羽柴P　　今、演出を担当している人は外部の方で、かつてテレビ東京の「テレビチャンピオン」という番組の演出をしていました。この人は職人さんに対して造詣が深くて、職人さんのすごい技にスポットを当てようと言い出し、2年目ぐらいに今のような路線にかじを切ったということになります。

司会　　羽柴さんは、「和風総本家」ではロケの段階から関わってこられたのですか。

羽柴P　　いわゆる人海戦術のリサーチ（人物探しなど）調査の段階から関わっていました。

司会　　日本の伝統を守り続ける職人さんに会ったり、すばらしい技に触れたりして何かお感じになることがありましたか。

羽柴P　　その影響はすごく大きく、自分の人生とかを考えるきっかけになったと思います。番組に登場した職人さんの中でも高齢の方がいて、その人が亡くなったらその技を引き継ぐ人がいなくなり、途絶えてしまう。こういう人こそ取材して記録を残すべきだと考えています。自分の使命を改めて感じるようになりました。

#### <気になるスター「豆助」のその後>

司会　　どうしても気になるのですが、あのマスコットのワンちゃんはどうなるのですか。

羽柴P　　今、出演している「豆助」は20代目、大体半年に一回撮影しています。一番かわいいときにロケして撮り切る形になっています。大きくなって役目を終えたら、わが社の社員か、信頼できる方に育ててもらうことにしています。

司会　　それぞれもらわれ先で、それぞれの名前が付いているんでしょうね。

羽柴P　　そうですね。「豆助」と付けている人もいますし、「豆太郎」と呼んでいる人もいます。

司会　　柴犬はどんどん大きくなりますよね。あのテレビに出ている「豆助」、大きくなったらどうするんだろうと思っていました。僕も柴犬を飼っていたので。「豆助」のかわいらしさというのは一つの番組のウリだと思いますので、どんな風が変わっていくのかなと思っていました。途中で何かほかの種類の“黒”が。

羽柴P 18代目でしたか、初めて「黒柴」にしてみたんです。なかなかインパクトがあり反響が大きかったですね。どうしちゃったのと。

司会 「豆助」に対してお手紙が届くとか聞きましたが。

羽柴P 次どうなるのかとか、ありますね。「豆助」のDVDを出して、「豆助」のその後を追いかけたシーンが入っていたりしています。

司会 「和」ということでまずご覧いただきました。それでは、皆さんから番組をご覧になった感想、あるいはご質問をいただきます。

#### <真似しない個性的な番組作り テレビ大阪・テレビ東京系>

出席者 「和風総本家」だけでなく、テレビ大阪、テレビ東京の番組制作に対する姿勢がほかの系列のテレビ局とは少し違うなど、常に感じているのです。それはどうしても(今のテレビ界を見ていると)ヒットすると、それを真似するというか、タレントの取り合いというかそういう世界ですので(似たような番組が出てくる)。だが、テレビ大阪、テレビ東京では、プロデューサーもディレクターも自分たちの考え方を表面に出して、個性的な番組が多い。その代表的な番組というのがこの「和風総本家」ではないかと思います。番組制作のスタンスがしっかりしているな、ひと言で言えば真似をしないという姿勢が貫かれているなと思いつつも楽しんで見えています。

司会 そのあたりはどうですか。

羽柴P おっしゃっていただいた通り、例えばほかの番組で出演していた職人さんは結構省かれるんですよ。取材するのをやめておこうと。その辺は自らに厳しくというか、そういう姿勢が評価されている部分かなと思っています。

司会 それから、この番組はもう10年続いているんですね。視聴者にどのように受け入れられていると思いますか。

羽柴P そうですね、今でこそ職人さんを扱う番組が増えてきており、競争にはさらされていますが、「和風総本家」ほどにはあまり深く突っ込んで取材していないところがあり、視聴者も同種の番組にはない“(情報の)密度の濃さ”を評価してくれているのではないかと思います。

出席者 ずっと見ているというか、私は（和風総本家が）無茶苦茶好きなんです。「ガイアの夜明け」とか「カンブリア宮殿」、旅ものでは「おとな旅あるき旅」も。何かその背後に新聞の匂いを感じるんです。これは適当な表現か知らないのですが、在阪4局はそれぞれバックに新聞社があるんだけど、あまり番組自体からその匂いは感じられない。ところが、日経新聞本体もそうだけれども、全体として共通の匂いというか、一つの文化というか、明らかにほかの系列局の匂いとは違うものが共通して流れている。それがあある意味、非常に好きなんです。だから取り上げ方、切り口というか、それ自体がちょっと違うのかなと思っています。あえて逆に言えば、日経新聞も含めてテレビ東京系全体がそれを明らかに差別化しようという戦略じゃないかなというのを感じています。今見た「和風総本家」、「ガイアの夜明け」「カンブリア宮殿」それに毎週土曜日夕方放送の三田村邦彦がレポートする「おとな旅あるき旅」も  
（羽柴氏が発言 「ちょっと種類が違うかもしれませんが」）  
ちょっと違うけれども、何か違うものを感じるのです。  
三田村邦彦が訪ねるところも、結構古いところなんですね。案外職人さんがいるところを探していくとか。

司会 なんか日経新聞が出てきました。

羽柴P この番組に関しては、そこまで日経色は強くないと思います。今のお話を聞きますとそうかなと思うところもあります。

出席者 テレビ東京系のネット局は少ないですね。それで先ほど番販(番組販売)の話が出ましたが、鯖江(福井)でよくあれほどのバリエーションのある素材を見つけたという気がするんですが、取材するその地区を選ぶにあたり、ちょっと番販を増やしてやろうといった戦略はあるんですか。

羽柴P それは特にないですね。このシリーズ「あなたの街の職人さん」で取材したのは山形と福井、そして鳥取、岡山ですね。

出席者 実は私、岡山の放送局(テレビ)にいたんですが、全国ネットのフィルターを通してそのエリアから放送されると、ものすごく盛り上がるんです。例えば「家族に乾杯」(NHK)なんかで地元の岡山のことが取り上げられると、視聴率は30%ぐらいまでいっちゃうんですよ。ところが同じものを地元の放送局がローカルで放送しても、視聴率はそれほど取れない。東京とか大阪のフィルターを通して作られた番

組には(同じ岡山を素材にしても)地元の人たちは高い関心を示すのです。

そういう意味では、番販、例えば福井だったら、福井のテレビ局でも同じような素材を扱っていると思うんですが、それは意識されないですか。

羽柴P そこは(地区を)選んでいる中では意識はしてなかったんですが、確かに石川県では北陸放送も(「和風総本家」を番販で)買ってくれているんですが、再放送まで買ってくれているぐらいで、視聴率は無茶苦茶いいんですよ。どちらかと言えば、伝統が残っている地域については、この番組は視聴されやすいのかなと言えます。福井も多分そうだと思います。逆に言うと、僕らもネタを選ぶにあたり、より皆さんが知らないことをというので、そんなに全国的にも注目されていないようなエリアとして福井とかは結構選びやすい部分であるかなと思いました。

司会 メガネの街というイメージはあったんですが、こういうところがあるというのは知らなかったですね。それとこういう人(越前漆器の仕上げ師「呂色師」ほか)がいるのはすごく驚きですね。

#### <伝統的な職人の技を途絶えさせないため映像で記録>

出席者 職人さんの技(仕事ぶり)を記録した映像を地元の中高生に見せて感想を求め、その若者の声を職人さんに聞いてもらう、取材が深く、きめ細かく、いい感じですね。

司会 (番組を)地元の中高生に見てもらってというのは、番組としてのアイディアですか。

羽柴P そうですね。番組制作を続けてきた中で、この人がいなくなったら、この<sup>わざ</sup>技を引き継ぐ人がいなくなってしまうというようなケースを極力取り上げたいということが根底にあります。伝統的な職人の技を途絶えさせないためにも、この番組を若者たちに見せることによって、そのことに少しでも役立つのであればと思っています。どういう効果や、意味があったのかは、分からないのですが。

出席者 ナレーターがすごくユニークで、もうあの声を聞いただけでこの番組が分かる、どなたですか。

羽柴P 「サザエさん」のもともと(磯野)フネさんの声をやっておられた麻生美代子さんいま92歳ぐらい、今はお年でもありますので分担制にしていますが、もちろんナレーション取りのときは来ていただいております。すごいですよ。

司会 ナレーションを聞いていますと、ものすごく若々しく、弾んでいて、いいナレーターだと思えますね。ほかにご意見がありましたら。

出席者 番組の冒頭、人気者の「豆助」に語りかけるように“旬の小鉢”が紹介される。そこで地名が出てくるでしょう。あれが楽しいですね。

#### <木曜日の夜は視聴率競争の激戦区 視聴者は60代、70代の男性>

出席者 最初のころ、視聴率でずいぶんご苦労があったはずですが、木曜日の夜9時台のあの時間帯は激戦区ですね。読売テレビは「ケンミンショー」、朝日放送も人気のドラマである「ドクターX」など。わざわざそんな時間帯にぶつけなくても、ほかの時間帯でやればもっと視聴率がとれると思うのですが。

羽柴P ただ、もともとやっていた月曜日(20:00~20:55)も苦戦した枠でした。我々の見方としては、木曜日に移って正解だったと思っています。テレビ東京の編成を見ると、前枠(8時台)はアニメ番組だったりする部分があって、結構そのつながりで言うと、木曜日に移って、前番組が「木曜8時のコンサート」で演歌番組を放し出してから、数字が連動してよくなりました。今はちょっと(視聴率は)厳しいです。人気番組「ドクターX」があったりする枠なので苦戦しています。一時期のいいときから比べると、下がっている気がします。

出席者 わが家は「和風総本家」と同時に放送している「ケンミンショー」は家族で見ているので、「和風総本家」は録画して、あとから見えています。木曜日夜は使い分けているんですよ。

司会 視聴者層はどうなっていますか。

羽柴P おそらく、60代、70代の男性が多いと思います。やっぱり(主役が)職人さんなんので高齢者の方が多いと思います。女性の視聴者を取り込みたいので、手土産を特集する企画もありました(ゲストが番組厳選のお土産を味わったランキングをつける)。

出席者 途絶えそうになった職人さんの技が、放送を通じて引き継がれるようになったというそんな話はないんですか。

羽柴P 事例はまだ聞いていません。もしかしたら、その後ということでもいい方向にいつかあるかもしれません。それを追っかけられないかとも考えています。

司会 ゴールデン番組で、これまでうまくいかなかったということを考えると、「和風総本家」で花ひらいたという感じはあるでしょうね。

出席者 先輩としては、自分が現場から離れてからの番組ですから、個人的には非常に残念ですが、後輩たちが創り上げてくれました。この番組も10年続いていて、しかもゴールデン枠でテレビ大阪制作のネット番組ですから誇りに思いますよね。先ほどから話題になっていたテレビ東京系列、テレビ大阪もそれにならっているところがありますが、ちょっとほかの系列と違うなというのは、20年も30年も前にすばらしいプロデューサーがいましたね。犬飼さんという方です。彼が知的エンターテインメントを軸にしようという路線を敷きました。犬飼さんはその後役員になられて退任されましたが、犬飼イズムが「カンブリア宮殿」や「和風総本家」、そのほかのクイズ番組などを生み出し、今の流れを創り出したんだと思います。たまたま、今の番組は“豆助”というワンちゃんが番組のキャラクターになって人気を集めていますが、そういう道を開いた人が犬飼さんだったというわけです。この番組を企画した人は、犬飼さんのプロダクションのスタッフだったと思います。

司会 この番組の出演者は、萬田久子さんをはじめ回答者が、なんかべたべたしていないという気がするんですよ。

出席者 毎回見ている、絶妙というか、独特の雰囲気がありますね。

司会 何かほかのバラエティー番組と違って、何かからっとしているというか。

出席者 司会のアナウンサーとゲストの回答者との掛け合いが面白いですよ。

羽柴P (掛け合いの面白さは)一つは多分、絶対に答えが分からないだろうというクイズ(問題)を出すことがよくあって、当ててもらって、分かるように(問題)を作ろうというのにあまり媚びていないからかなと思います。

司会 ゲストの回答者が本当に真剣に考えていますね。

羽柴P だから(クイズに)当たったら無茶苦茶喜ばれます。

出席者 この種の番組というのは、作り方は違ってきていますが、昭和 30 年代初め、テレビがスタートした頃からありました。日本の伝統産業を受け継いでいる「職人さん」が主人公の番組、これからお話される「旅もの」も。こういったジャンルの番組は、在阪 4 局の中で開局が遅れ、ネットのないときに日本海側など各地の職人さんを訪ねてよく取材に行ったことがありました。もちろんフィルム時代ですが、テレビの特性を生かして撮影できる対象です。職人の高度な技を、特にそのプロセス、工程を具体的に映像で記録する、目に見えにくい対象を言葉と映像で切り取っていく。これは活字の世界では描きにくい分野です。今は 4K カメラで撮影されていますね。それだけに映像はきめ細かく、情報量が非常に多い。制作工程のプロセスがものすごくリアルに再現されています。これはフィルムでは表現できないでしょうね。

それから先ほど他局で放送された職人さんは（「和風総本家」では）扱わないとおっしゃったけれど、どんどん扱えばいいと思います。「和風総本家」のスタッフが編み出した奥行きのある“絵づくり”は独特なものですから。非常に面白い番組作りだと思います。

出席者 この番組に出た職人さんは、他局ではもう扱えないというくらい、自信をもっていると思います。

#### <三田村邦彦が案内人 「おとな旅あるき旅」今年で 10 年目>

司会 それではもう一本の旅番組をご覧ください。毎週土曜日の夕方 6 時半から放送している「おとな旅あるき旅」(30 分)の「冬の京都散歩」です。

リポーターは三田村邦彦さんとタレントの斉藤雪乃さんです。

〔注〕三田村邦彦さんのことは  
テレビ大阪のホームページに  
「全国を旅して訪ね歩く“おとなの旅人”。  
その経験と感性から、旅先の魅力を探し出し  
視聴者にお伝えします」と紹介されている。

「冬の京都散歩」  
京都東山にある古いお寺を訪ね、歴史ある  
伏見街道をぶらり散策。途中、祇園に立ち寄り  
京都の伝統の味を楽しむ。例えば、  
○東福寺では  
奇跡的に焼け残った大仏の左手（約 2m）  
と対面

○伏見街道沿いにある大正 4 年創業の豆腐店では手作りの木綿豆腐を、そして江戸末期からある酒屋でワインではなく、葡萄酒をすすめられる。

番組全体にゆったりとした時間が流れる、あまり気取っていない作り方がいい。料理を楽しむ三田村さんと斉藤さんの会話も自然体で嫌味がない。

(「おとな旅あるき旅」の番組試写が終わり、出席者との質疑)

司会 (熊鍋を食べる三田村さんの表情を見て) かなりおいしそうでしたな。

羽柴P (「和風総本家」とは) 全然、テイスト(趣向)の違う番組ですが。今、ご覧いただいた番組「おとな旅あるき旅」も、来年1月で丸10年になります。この番組では全部ロケに同行しています。昨日は、3月24日放送のロケで「しまなみ海道」の島めぐりをするということで広島に行ってきました。もともとこの番組はJR西日本の一社提供のスポンサー番組です。

司会 ということは(取材先は)西日本が中心になりますね。

羽柴P 意外に新潟あたりまでJR西日本管内ですので、新潟を対象にロケし番組を作るケースもあります。九州も九州新幹線との乗り入れがあるので、鹿児島とか、熊本も取材エリアに入っています。

司会 京都といっても、場所によってはまだ知られていないところもありますね。そういうメジャーでないスポットもねらっているのでしょうか。

羽柴P 旅先は最終的には、JR西日本と相談して決めているんですが、毎年、キャンペーンをしていますので、例えば「京の冬の旅キャンペーン」とか、それでこのキャンペーンに入っているところは絶対行かないといけないんです。10年近くやっていると、大体ネタも重なってきますので、三田村さんも何回目というところが出て来ます。ですから同じところに行っても、新鮮なリアクションが出るように知らないネタを掘り起こしたりと工夫しています。こんなケースは苦勞します。

司会 この番組は三田村邦彦さんと女性タレントの二人で旅をする形をとっていますが、番組が始まった当初は三田村さんはスタジオにいて旅の案内をしていましたね。

羽柴P 最初2年くらいは、リポーターなしで、映像だけ構成し、スタジオにいる三田村さんがその映像を見ながら進行していくスタイルでした。途中から三田村さんが「私も旅に出られないか」とおっしゃったので、スタジオを飛び出し、ロケ地に行ってレポートするようになりました。三田村さんはもうほとんどのロケ地に足を踏み入れておられます。

司会 この「おとな旅あるき旅」の視聴者層は、やはり年齢的にはやや高い人がターゲットになるのでしょうか。

羽柴P この番組は明確で、年齢的にはM60(60歳代・男性)、三田村さんは64歳で、同じ年代の男性をねらっていて、(調査の結果からも)その年代のシェアが大きい。三田村さんも自由気ままにやっているので、女性からは「また勝手に飲み歩いている」という風に見られているようです。ですから女性はあまりメインターゲットになっていないようです。

司会 三田村さんが「テレビの番組ではあまり、お酒を飲まないことにしていたが、この番組だけはリラックスして飲んでしまう」と語っているのを何かで読んだことがあるんです。

羽柴P そうですね、最初はもともと、あまりお酒を飲む番組ではなかったのですが、途中から解禁して、ちょっと噂になり「あんな朝から飲み歩いている番組はない」と話題になって、火がついたのかと思っています。

司会 この番組も、職人さんみたいな人が出てきますが、そういうのは意識しているのですか。

羽柴P やっぱりメインのターゲットに高齢者をねらっていますので、あまりチャラチャラしたところには行かない感じになっています。

司会 三田村さんと一緒に歩いているのはアナウンサーですか。

羽柴P 今回「京都」編でレポートしていた斉藤雪乃さんはタレントで、読売テレビの「朝

生ワイドす・またん！」に出演しています。アナウンサーが出ることもあります。

司会     というような旅番組です。ご出席の皆さんからご感想、ご意見などお聞きします。

出席者   「おとな旅あるき旅」のロケ地の選び方についてですが、大阪発とわざわざ言っているんですから、大阪からどのくらいのところを設定しているのですか。1泊ぐらいで行けるところですか。

羽柴P   広島などでは日帰りでは行けませんので、1泊2日の旅にしようかということで取材スケジュールを作ります。

出席者   なぜ大阪を起点にしているのですか。

羽柴P   JR西日本も大阪からどういうコースをたどるか旅先のプランを決めていますので、番組でもそのプランに乗ります。

出席者   やっぱり限界はありますね。

羽柴P   そうですね。遠方になりますと、1泊2日とか宿泊が絡んだロケになります。

#### <旅先はやはり「京都」が一番多い>

司会     旅の行き先はどういう風に決まっていますか。

羽柴P   もうJRのキャンペーンですから、まさに昨年なんかは、瀬戸内キャンペーンを展開していましたので、番組もその路線で企画していました。岡山が多かったように思います。京都は夏2回、冬に3回ぐらい、これはどんなことがあっても必ず取材し放送します。

出席者   番組を見ていますと、結構、盛りだくさんですね。お寺も東福寺と泉涌寺。食べ物屋さんもあり、毎回そうなんですか。

羽柴P   一回で、6つから7つのネタ、つまり6~7か所訪ねる形で一つの番組にまとめています。30分番組で(普通なら)2本撮り(2回分の番組を収録)出来るんじゃないかと思うのですが、やっぱり飲んだりするものですから1本撮りが限界ですね。

出席者 つい先日放送した「おとな旅あるき旅」は“大阪城公園再発見”というサブタイトルでしたが、10年近く放送していると同じ場所が何度か出てくるでしょうね。

羽柴P ロケ場所を変えるということになります。今までだったら、大阪城公園と森ノ宮、玉造を乗り継いで店を巡るといのが多かったのですが、今回は大阪城公園に特化して、商業施設に変貌した新しい顔を持つ大阪城公園にスポットを当てました。10年もやると同じパターンになってくるので、そうならないように毎回、テーマとか番組の組み立てとかを考えて、いろいろ工夫しています。

### <「今のテレビ どう思いますか」 若き制作者のテレビ観>

司会 ぼつぼつ予定の時間になってきましたが、今回はテレビ大阪制作の全国ネットの番組「和風総本家」とローカルで放送されている旅番組を見てきました。

羽柴さんは入社されて14年ですか。恐らく入社されたころは、テレビも大変な時代だったと思います。今日ご出席のメンバーの方はラジオもテレビも全盛期の頃に放送現場にいたわけですが、今は視聴者離れとか、インターネットの登場でメディア環境が激変してきています。37歳と本当にお若いのですが、視聴者が今、テレビに寄せる視線という点から見て、羽柴さんはテレビに対してどんな考えをお持ちですか。

羽柴P 若い人の間でテレビ離れなどとよく言われています。確かに若者はテレビをあまり見ない、例えば子供のところへ取材に行って、大きくなったら何になりたいと聞くと、結構な確率で“ユーチューバー”って言うんですよ。あーそんな時代かと改めて思いました。僕らでもちょっと思うときがありますので、大分進んでいるな、ネット動画というか、そっちの方に行っているなと感じました。でも僕らは、50代、60代、70代の方々にどう見てもらうかということの日々心掛けています。最近よく感じるのは、「おとな旅あるき旅」でもそうなんですが、わざとらしい持っていき方とか、もう既定路線でそこへ行くんでしょみたいなときは、露骨に反応するというか、嫌がられ(視聴者が)離れていくような気がするんです。だから予定調和にならないように、制作者としてはそれを視聴者に悟られないよう常にどうすればいいかを考えています。

司会 今ちょっとお話が出ましたが、高齢者が、テレビ番組を見ようかというときに(地上波で)見る番組がない、見たい番組がないというので、BSやCSの番組を見るようになっているんです。

今日、二つの番組を拝見しましたが、これからの高齢化社会をかなり意識して作っておられるのかなと思ったんですが。

羽柴P ただ、その中でも視聴者の目が肥えてきているので、あまり面白くないというか、わくわくしないような形にならないよう、どう仕込んでいくかということに気を付けています。

司会 視聴者の目が肥えていますか

羽柴P 年配の方も若い方もそうですが、目が肥えていますね。どうせテレビはあれでしょうという見方をされるので。“予定してたんでしょ、あそこは”という風な感じで言われますので。

司会 逆に若い世代に向けては、テレビはどんな風になったらいいと思っているのでしょうか。

羽柴P そうですね、局全体としてそっちの方向に向いていないような気がしますので、それはそれでよくないと思うのです。何でしょうね、やっぱり若い人はより刺激的なものを望んでいます。今、コンプライアンス、コンプライアンスと言われる中で、それをどうかいくぐってやるかということなのかなと思います。  
今、うちでも「吉本超合金A」という番組を日曜日の夜遅い時間帯で放送しています。昔ちょっとヒットした番組ですが、それも社内ではチェックが厳しいですね。昔、羽目を外していたから人気だった番組を、今リバイバルという形で放送しているんですが、足かせが多いと聞いています。

司会 それと働き方改革というのが業界にとっては非常に迷惑なことですね。

羽柴P 今、それがシビアで僕ら社員も(時間になれば)帰らないといけないし、制作会社の方も同じです。それがダブルで制作現場の仕事に影響してきています。

司会 ということで、さまざまな悩みを抱えながらも、やっぱり生き生きと、元気に番組を作っている羽柴康晴さんに、現役ならではの貴重なお話を伺いました。本当にお忙しいところありがとうございました。

以上